

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@maff.go.jp



四国山の日

No.1157 2016年8月号

JICA・四国森林管理局合同 国際シンポジウム

7月13日、四国森林管理局はJICAと合同で「ケニアと日本における公有林の生態系保全」を主題とした国際シンポジウムを開催しました。

【詳細は2頁】



JICAと四国森林管理局が 国際シンポジウムを開催

〈四国森林管理局〉



七月十三日、四国森林管

森林公社職員は全員が地方

理局は、JICAと合同で

組織に所属し、日本でいう

「ケニアと日本における公

ところの森林管理局、森林

有林の生態系保全」を主題

管理署と同様の組織に所属

とする国際シンポジウムを

しています。

開催しました。

意見交換の内容として、

シンポジウムには、ケニ

ケニアにおける森林被害に

ア森林公社職員など林木育

対する質問では、アフリカ

種センターが実施するJI

ゾウによるものが多いが、

CAプロジェクトの研修生

食害ではなく移動による踏

六名のほか、四国森林管理

みつけにより倒れるものが

局、高知大学、高知県庁、

多いこと。これに加えて、

牧野植物園などから約四十

放牧されているヤギによる

名が参加しました。ケニア

食害が大きく、ヤギ対策と

して樹木の幹の周囲に枝等

また、ケニア側からの意

プロジェクト研修生を招い

を巻き付けていること。ま

見として、森林率が高い日

たホームパーティーが催さ

た最近、ケニアで植林が始

本において木材輸入が高い

れました。

まったセンダンに係る質問

理由や、特に私有林におけ

コミュニケーションなら

では、日本では成長の早さ

る公益的機能の発揮のため

ぬ、ノミネケーションで、

に注目したのに対し、ケニ

の実効的な施策等に係る質

夜の国際シンポジウムも大

アでは乾燥への強さに着目

問がありました。その他、

盛況となりました。

したこと、また、その収穫

日本はこれまで

は七年〜一五年が想定され

努力して立派な

ていること。そして、ケニ

森林資源を育て

アの森林管理における市町

てきたが、今後

村の役割に係る質問につい

は、林業を担う

ては、ケニアでは二〇一〇

人材にもっと視

年の憲法改正により四十七

点を当てるべき

の州政府が設置されたばか

ではないかとの

りであり、地方公共団体は

意見が出されま

整備途中であるため、森林

した。

公社が支援を行っている

シンポジウム

の説明がありました。

の後、JICA

夜の国際シンポジウムにて



森林教室の様子



六月二十五日、香南市立野市小学校の第一〇回環境フェスティバルが催された。

親子行事
『野市小学校 環境フェスティバルで出前講座』
〔技術普及課〕

その中で局スタッフによる

森林・木工教室を行いました。

このイベントは、「環境に関わる学習を児童が保護者と共に学んだり、体験することで、環境に対する関心を高めること」を目的として開催されており、四国森林管理局の参加は三回目となります。

ります。多くの講座の中から、今回は、「木工クラブを通して木材のよさを知り、森林の役割について考える。」をテーマとし、二年生から四年生の二十五名の児童が参加してくれました。

まず、「森林の働き」についてクイズ形式で児童達に出題しました。その後、クイズの内容に関連して、ペットボトルを利用して、ペットボトルを利用した浸透実験を行いました。山の土と、砂をつめた二つのペットボトルに、上から水をかけていくと、砂の方から一気に水が流れ出たので、「オース」と歓声が起きました。

次に、一番堅い木（コクタン）と一番柔らかい木（バ

ルサ）と身近な木製品エンピツが水を張った水槽に浮かか、沈むかを見てもらい、木でも沈む種類があることを理解してもらいました。児童達に実際に目で見て試してもらうことで、関心をとても

引いたように感じました。木工教室は、一四種類もの作品に分かれていましたが、ボランティアの方を含めた八名での指導と、父兄の協力により、頑張った全員の作品が完成しました。



完成することができました。早く完成した子は、さらに、定番の工作「ジージーゼミ」を作製し、作製に時間一杯かかった子には完成品をプレゼントしました。「ジージーゼミ」は木工作品同様にたいへん人気で、

い手対策」、「森林認証の普及」について、活発な議論を行いました。

最後にドローンの取組について、愛媛署丸田地域林政調整官が実物を見てもらいながら、操作方法と今後の業務への活用等について説明を行いました。ドローンについては県関係者の関心も高く、検討会等の開催を依頼される等、今後更に関係者が連携しより効果的な活用につなげていくことを確認しました。

愛媛大学生への森林・林業現地説明会開催
 〈愛媛森林管理署〉

七月十五日、四国局と愛媛大学との連携協定の一環として、農学部森林資源学コース三回生二二名に對



挨拶する木村業務管理官

し、国有林の現地説明会を開催しました。

当日は天候にも恵まれ、四国局木村業務管理官から「本日の現地説明会が皆さんの進路や研究テーマの参考になれば幸いです」との挨拶がありました。

説明会では、あいなやま相名山国

有林二〇林班の森林整備事業（保育間伐活用型）の現場にて、丸田地域林政調整官が事業概要について説明を行いました。さらに請負事業体の（株）いぶきの白川部長から森林作業道の作設、伐倒、造材、

運材までの一連の作業について説明があり、実演ではスギ立木が伐倒される度に学生から歓声があ

がっていました。続いて、おもごやま面河山国

有林一二林班の面河

四国カルスト自然休

養林内に移動し、国

有林のレクリエーションの森制度について中井総括森林整備官より説明をうけ、自然休養林内の歩道を散策して、雄大な原生林と清流に触れてもらいました。

生産現場での造林作業見学



林整備官が説明を行うとともに、自動選別機による木材の選別・仕分け状況等について久万木材市場の成川社長から説明を受けました。最後に、（株）久万木材市場にて、国有林材の販売でも、川畑署長から入庁案内、本田森林技術指導

自然休養林内での説明



官から四国局の業務概要の説明を行うとともに、愛媛大OGの毛利技官から入庁後の体験談などの説明を受け、盛り沢山の内容となりました。

なお、今回の現地説明会の模様については地元新聞紙に掲載され、当署の取組

を広く県民にPRする良い機会になりました。



久万木材市場での見学



平成二十七年、三月に締結した「赤羅木山・大モリ・

佐々連尾山地域森林整備推

進協定」に基づく森林共同施業団地の連絡調整会議を、七月二十六日協定者の森林整備センター松山水源林整備事務所関係者、四国局及び当署関係者が参加して開催しました。



連絡調整会議の様子

この森林共同施業団地

は、当署土居森林事務

所部内の佐々連尾山

国有林一〇四三林班

(二九六ha)と隣接す

る水源林造成事業地

(一〇〇ha)の合計

二九六haを設定した

ものです。

会議では、昨年度

の実施状況について報告を行うとともに、本年度のそれぞれの事業計画及び今後の課題等について協議を行いました。

現地においては、森林共

同施業団地全体の区域確認

と民有林側の森林作業道の

計画路線の遠望を行い、来

幅員の確認状況



年度以降の線形について協議するとともに、本年度に開設中の森林作業道の現場において幅員やヘアピンカーブの作設状況等の確認を行いました。

本年度から二年目に入

り、民有林・国有林それぞ

れに課題はありますが、お

互いが連携協議して少しづつでも事業を前進させるとともに、愛媛県内の民国連携のモデルとなるようにしていくことを確認しました。

年間を通した 森林環境教育 〈ふれあい推進センター〉

六月二十七日、愛媛県松野町立松野西小学校の四年生十八名を対象に、森林の働きや校庭にある樹木の名前や特徴を調べて、樹木名板や樹木の立て札を製作、設置することにより、樹木

への感心を持ってもらおう について説明しました。 じく、四年生十八名 樹木名板出来たよ

と、本年度第一回目の森林 説明の後、校庭で実際に 環境教育を実施しました。 生えている三十三種の樹木 が、第二回目の森林 環境教育として木工

四万十川森林ふれあいセ の観察をしました。生徒は、 クラフト製作を行いました。 ンターの活動内容について 樹木の前では、木の名前や ました。 説明をした後、大切な自然 特徴について説明をうけた 始めに、木材は軽

の一つである「森林の働き」 後、教室で、ヒノキの樹木 くて丈夫なことや



校庭の樹木学習の様子

名板に、ポスターカ ラーで科名と和名を 書き、余白には、思 い思いのイラストを 描いて樹木名板を完 成させました。出来 上がった樹木名板 は、児童の手で早速、 校庭の樹木に取り付 けられました。

加工しやすいことか ら、いろいろな生活 用品に使われ、私達 の暮らしを快適にし てくれるすばらしいもので あること、きちんと手入れ をすれば千年以上もの耐久 性のある建物もできること カニ、タヌキ、ネコなどの かわいいたんぽうを見たり 供達は、作りたいものを決

七月六日には、同 刃物や道具を使つての自 め、一生懸命にミズメやヒ



樹木名板出来たよ

メシヤラ、ウツギなどの木の枝を使って木工クラフトづくりにも挑戦しました。慣れないノコギリやクラフトナイフ等を使っての作業でしたが、手作りの置物、ブローチ等を完成させました。

オリジナル作品を製作したことで、木のぬくもりや、素材としての木材の良さについて感じてもらえたのではないかと思います。

今後の予定としては、「空飛ぶ種子」や「水の土壌浸透実

験」、そして、「炭焼き体験」

や「八面山登山」を計画し

ています。これらの年間活

動を通して、森林の大切さ、

木材利用についての理解を

深めてもらいたいと思いま

す。



木工クラフト製作の様子

四国四県木材協会等 団体長会議が開催

〈愛媛森林管理署〉

七月二〇日、松山市内に

おいて、平成二八年度四国

四県木材協会等団体長会議

が開催されました。四国

県より各県担当者、各県木

材協会、全国木材組合連合

会等代表者が参加し、四国

局からは田口森林整備部

長、吉良企画官、川畑署長

が出席しました。

会議では、田口森林整備

部長より平成二八年度の四

国局の事業概要について、

各県担当者より平成

二八年度の各県毎の

新規・重点事業につ

いての説明がありま

した。また、各県木

材協会等代表から本

年度の重点事業につ

いて、全国木材組合

連合会の島田副会長

から木材産業の中央

情勢等について説明

がありました。

続いて情報交換に移り、

各県毎の原木生産量、木材・

木製品出荷額の現況や木材

輸出状況など他県への問い

合わせ事項等について報告

がなされ、それぞれの報告

田口森林整備部長より四国局の
事業概要説明



に対して活発な質疑応答が

行われるなど有意義な意見

交換の場となりました。

来年度は、香川県で開催

する予定です。